

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

WPI 資料

Set Items Description

?s PN=JP 11-79953

→ ?S PN=JP 11079953
S1 0 PN=JP 11-79953

?T S2/5/1
S2 1 PN=JP 11079953

2/5/1
DIALOG(R)File 352:Derwent WPI
(c) 2001 DERWENT INFO LTD. All rts. reserv.

012455291
WPI Acc No: 1999-261399/199922
XRAM Acc No: C99-077075
Spray type hair cosmetics - contain ester oil and/or triglyceride oil,
higher and lower alcohol(s), without water
Patent Assignee: KOSE KK (KOSE-N)
Number of Countries: 001 Number of Patents: 001
Patent Family:
Patent No Kind Date Applicat No Kind Date Week
JP 11079953 A 19990323 JP 98202820 A 19980702 199922 B

Priority Applications (No Type Date): JP 97210037 A 19970718
Patent Details:
Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes
JP 11079953 A 6 A61K-007/06

Abstract (Basic): JP 11079953 A

NOVELTY - Composition contains 0.1-5 wt.% ester oil and/or
triglyceride oil, 20-60 wt.% higher alcohol and 35-79.9 wt.% lower
alcohol. The composition is added to a stock solution which does not
contain water. The mix ratio of injection agent and stock solution is
50:50-10:90.

USE - None given.

ADVANTAGE - Avoids stickiness of hair. Maintains glossiness and set
hair style, reliably.

Dwg. 0/0

Title Terms: SPRAY; TYPE; HAIR; COSMETIC; CONTAIN; ESTER; OIL; TRI;
GLYCERIDE; OIL; HIGH; LOWER; ALCOHOL; WATER

Derwent Class: D21

International Patent Class (Main): A61K-007/06

International Patent Class (Additional): A61K-007/00; A61K-007/11

File Segment: CPI

(19)日本国特許庁 (JP)

(12)公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-79953

(43)公開日 平成11年(1999)3月23日

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

F I

A 6 1 K 7/06
7/00
7/11

A 6 1 K 7/06
7/00
7/11

S

審査請求 未請求 請求項の数2 F D (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平10-202820

(22)出願日 平成10年(1998)7月2日

(31)優先権主張番号 特願平9-210037

(32)優先日 平9(1997)7月18日

(33)優先権主張国 日本(JP)

(71)出願人 000145862

株式会社コーセー

東京都中央区日本橋3丁目6番2号

(72)発明者 東福寺 留佳

東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー
一研究所内

(54)【発明の名称】毛髪化粧料

(57)【要約】

【課題】毛髪に使用した時に、セットしたヘアスタイルを崩すことなく、また、べたつきや重さを生じることなく、適度なまとまりの良さ、指すべりの良さ、ツヤを付与する等優れた品質を有する毛髪化粧料を提供する。

【解決手段】高級アルコール 0.1~5重量%、エステル油及び/又はトリグリセライド油 20~60重量%、低級アルコール 35~79.9重量%を含有し、かつ、実質的に水を含まないことを特徴とする毛髪化粧料。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 次の成分 (A) ~ (C) ;

(A) 高級アルコール 0.1~5重量%

(B) エステル油及び/又はトリグリセライド油 20~60重量%

(C) 低級アルコール 35~79.9重量%

を含有し、かつ、実質的に水を含まないことを特徴とする毛髪化粧料。

【請求項2】 次の成分 (A) ~ (C) ;

(A) 高級アルコール 0.1~5重量%

(B) エステル油及び/又はトリグリセライド油 20~60重量%

(C) 低級アルコール 35~79.9重量%

を含有し、かつ、実質的に水を含まない原液に加え、更に噴射剤を含有し、原液と噴射剤との混合重量比が、原液：噴射剤=50：50~10：90であることを特徴とするスプレー型の毛髪化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、実質的に水を含まないことを特徴とする毛髪化粧料に関し、さらに詳細には、毛髪に使用した時に、セットしたヘアスタイルを崩すことなく、また、べたつきや重さを生じることなく、適度なまとまりの良さ、指すべりの良さ、ツヤを付与する組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】髪のもつれを防止し、まとまりを良くし、また、適度なツヤを付与する毛髪化粧料は種々開発されており、目的とする使用性に依じて液状、乳液状、クリーム状、ジェル状、固形など、あるいは、ミスト、ムース、スプレーなど、様々な形態のものが提案されている。処方成分としては、各種油剤、シリコン誘導体、活性剤などが適宜配合されていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、処方成分中に水を配合した組成物は、スタイリングの最後に使用すると、髪が濡れて、セットしたヘアスタイルが崩れてしまうという欠点があった。油剤や界面活性剤の配合は、その種類や量の選択によっては、べたつきや重さが生じ、スタイリングの最後に使用する場合には、セットしたヘアスタイルが崩れてしまうことがあった。また、シリコン誘導体を使用したときは、ごわつきを生じたり、洗髪性に難が生じることがあった。従って、髪のもつれを防止し、まとまりを良くし、また、適度なツヤを付与する機能はそのままに、セットしたヘアスタイルを崩すことのない、毛髪化粧料の開発が望まれていた。

【0004】

【課題を解決するための手段】このような事情に鑑み、本発明者は上記欠点を克服すべく鋭意研究を行った結果、特定量の高級アルコール、エステル油及び/又はト

リグリセライド油、低級アルコールを含有し、かつ、実質的に水を含まないことを特徴とする毛髪化粧料が、毛髪に使用した時に、セットしたヘアスタイルを崩すことなく、また、べたつきや重さを生じることなく、適度なまとまりの良さ、指すべりの良さ、ツヤを付与することを見出し、本発明を完成するに至った。

【0005】すなわち本発明は、次の成分 (A) ~ (C) ;

(A) 高級アルコール 0.1~5重量%

(B) エステル油及び/又はトリグリセライド油 20~60重量%

(C) 低級アルコール 35~79.9重量%

を含有し、かつ、実質的に水を含まないことを特徴とする毛髪化粧料である。さらには、次の成分 (A) ~ (C) ;

(A) 高級アルコール 0.1~5重量%

(B) エステル油及び/又はトリグリセライド油 20~60重量%

(C) 低級アルコール 35~79.9重量%

を含有し、かつ、実質的に水を含まない原液に加え、更に噴射剤を含有し、原液と噴射剤との混合重量比が、原液：噴射剤=50：50~10：90であることを特徴とするスプレー型の毛髪化粧料である。以下、本発明について更に詳述する。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明に用いられる (A) 成分の高級アルコールは、トリートメント助剤として (B) 成分のエステル油及び/又はトリグリセライド油と併用することによってトリートメント効果を高め、また、毛髪表面に滑沢性を付与するはたらきがある。本発明で用いられる (A) 成分の高級アルコールは、通常化粧料に使用できる高級アルコールであれば特に限定はされないが、炭素数14~22のものが好ましく、具体的には、ミリスチルアルコール、セチルアルコール、ステアシルアルコール、ベヘニルアルコール、オレイルアルコール等が挙げられる。これらのうち、セチルアルコール、ステアシルアルコール、ベヘニルアルコールが特に好ましい。

【0007】本発明において、(A) 成分の高級アルコールは、1種又は2種以上を組み合わせる用いることができるが、その配合量は、0.1~5重量% (以下、単に「%」と記す) であり、より好ましくは0.5~2.5%である。0.1%未満ではトリートメント効果及び毛髪の滑沢性が満足に得られず、また、5%を超えて配合すると組成物の安定性に支障をきたす場合がある。

【0008】(B) 成分のエステル油及び/又はトリグリセライド油は、毛髪への親和性及びコンディショニング性付与効果に優れ、毛髪になめらかさやしなやかさ、まとまり感を与えるはたらきがあり、トリートメント効果の付与剤として有効なものである。本発明で用いられ

る(B)成分のエステル油及び／又はトリグリセライド油については、通常化粧料等に使用され、髪にトリートメント効果を付与できるものであれば特に限定はされないが、具体的には、ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸オクチル、2-エチルヘキサン酸セチル、パルミチン酸セチル、ジカブリン酸プロピレングリコール等のエステル油、トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル、トリカブリン酸グリセリル等のトリグリセライド油が挙げられる。

【0009】本発明において、(B)成分のエステル油及び／又はトリグリセライド油は、1種又は2種以上を組み合わせて用いることができるが、その配合量は20～60％であり、より好ましくは30～55％である。20％未満ではトリートメント効果が満足に得られず、また、60％を超えて配合すると油感が強くなったり、べたつきや重さが生じるなど、良好な品質を得ることが難しい。

【0010】本発明において、(C)成分の低級アルコールは、(A)成分及び(B)成分の溶媒として使用される。本発明で用いられる(C)成分の低級アルコールとしては炭素数1～3の脂肪族モノアルコールが挙げられ、具体的にはエタノール、イソプロパノール等が挙げられる。これらのうち、エタノールが特に好ましい。

【0011】本発明において、(C)成分の低級アルコールは、1種又は2種以上を組み合わせて用いることができるが、その配合量は35～79.9％であり、より好ましくは40～65％である。35％未満では(A)成分及び(B)成分の配合量が多くなり、べたつきや重さが生じるなど、使用感上の弊害が生じることがある。また、79.9％を超えて配合するとトリートメント効果が満足に得られず、また、低級アルコールによるきしみ感などが感じられる場合がある。

【0012】本発明の毛髪化粧料においては、上述した成分を配合し、かつ、実質的に水を含まないことを必須とする。処方成分として水含有すると、スタイリングの最後に毛髪に使用した時に、髪が濡れて、予めセットしたヘアスタイルが崩れるという欠点を生じてしまう。

【0013】また、上述した(A)～(C)成分を特定量配合し、かつ、実質的に水を含まない原液に加え、更に噴射剤を特定重量比率で配合することによってスプレ

ー型の毛髪化粧料を得ることができる。この場合、手を汚すことなく使用することができ、また、適切な量を髪に塗布しやすいので、使用性がより簡便なものとなる。

【0014】噴射剤としては、液化石油ガス、ジメチルエーテル等が挙げられ、これらを適宜選択して用いることができる。スプレー型の毛髪化粧料とする場合、原液と噴射剤との混合重量比は、原液：噴射剤＝50：50～10：90であり、より好ましくは、40：60～20：80である。この範囲内で混合することにより、原液を良好なスプレー状で噴霧することができる。

【0015】更に、本発明の毛髪化粧料には、上記の必須成分に加え、目的に応じて本発明の効果を損なわない量的、質的範囲で、アニオン性、カチオン性、ノニオン性、両性等の各種界面活性剤、多価アルコール、エステル油及び／又はトリグリセライド油以外の各種油剤、シリコーン油、ポリオキシアルキレン変性オルガノポリシロキサン等のシリコーン誘導体、各種ポリマー類、コンディショニング剤、エモリエント剤、紫外線吸収剤、香料、殺菌剤、防腐剤、酸化防止剤、ヘアケア用の美容成分等、毛髪化粧料において汎用である他の成分を配合することができる。

【0016】本発明の毛髪化粧料は、他の成分との併用や容器の機構により、液状、ジェル状、クリーム状等、種々の形態にて実施することができ、また、適当な噴射剤と組み合わせて通常のエアゾール容器に充填することもできる。具体的にはヘアローション、ヘアリキッド、ヘアジェル、ボマード、ヘアミスト、ヘアスプレー、ヘアムース等での実施が可能である。

【0017】

【実施例】以下に実施例を挙げて、本発明を更に説明する。なお、これらは本発明を何ら限定するものではない。

【0018】実施例1～6及び比較例1～5 ヘアローション

表1及び2に示す組成のヘアローションを下記製法にて調製し、毛髪へ塗布した時のヘアスタイルの崩れにくさ、使用感(まとまり、指すべり、ツヤ、並びにべたつきのなさ)、及び安定性を評価した。

【0019】

【表1】

(%)

(成分)	実施例					
	1	2	3	4	5	6
1. 1-ヘキサノール	1.0	0.1	5.0	1.0	1.0	1.0
2. 2-メチル酸オクチル	45.0	45.0	45.0	—	10.0	30.0
3. トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル	—	—	—	45.0	10.0	30.0
4. エタノール	53.9	54.8	49.9	53.9	78.9	38.9
5. 香料	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
6. 精製水	—	—	—	—	—	—
〈使用性試験〉						
ヘアスタイルの崩れにくさ	◎	◎	◎	◎	◎	○
まとまり	◎	◎	◎	◎	◎	◎
指すべり	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ツヤ	◎	◎	◎	◎	◎	◎
べたつきのなさ	◎	◎	◎	◎	◎	○
〈安定性試験〉						
室温	◎	◎	◎	◎	◎	◎
40℃	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5℃	◎	◎	◎	◎	◎	◎

【0020】

【表2】

(%)

(成分)	比較例				
	1	2	3	4	5
1. 1-ヘキサノール	0.01	10.0	1.0	1.0	1.0
2. 2-メチル酸オクチル	45.0	45.0	5.0	40.0	45.0
3. トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル	—	—	5.0	40.0	—
4. エタノール	54.89	44.9	88.9	18.9	48.9
5. 香料	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
6. 精製水	—	—	—	—	5.0
〈使用性試験〉					
ヘアスタイルの崩れにくさ	◎	◎	◎	△	×
まとまり	○	△	×	◎	○
指すべり	×	△	△	◎	△
ツヤ	○	×	△	◎	○
べたつきのなさ	◎	○	◎	×	△
〈安定性試験〉					
室温	◎	△	◎	◎	△
40℃	◎	△	◎	◎	△
5℃	◎	×	◎	○	×

【0021】 (製法)

A: 成分1～3を加熱溶解する。

B: 成分4～6を混合溶解する。

C: BにAを添加し、均一に混合してヘアローションを得た。

40

【0022】 (評価方法)

1. 使用性試験

専門評価パネル10名に上記試料を使用してもらい、毛髪へ塗布した時のヘアスタイルの崩れにくさ、使用感(まとまり、指すべり、ツヤ、並びにべたつきのなさ)の各項目について、(a)絶対評価基準を用いて5段階評価した。その後、各試料の評点の平均値を(b)4段階評価基準を用いて判定した。

(a) 絶対評価基準

(評点) (評価)

5: 非常に良好。

4: 良好。

3: 普通。

2: やや不良。

1: 不良。

(b) 4段階判定基準

(判定) (評点の平均値)

◎: 4. 5点以上。

○: 3. 5点以上4. 5点未満。

△: 2. 5点以上3. 5点未満。

×: 2. 5点未満。

【0023】 2. 安定性試験

表1及び2の各試料を透明なガラス容器に充填し、室

温、5℃及び40℃の条件下に静置して2週間後に肉眼

にて観察し、下記の(c)評価基準を用いて評価した。

(c) 評価基準

◎：変化なし。

○：やや分離もしくは析出の兆候が観察されるが、再分散により均一状態となる。

△：わずかに分離もしくは析出が観察され、再分散性がやや不良。

×：明らかに分離もしくは析出が観察され、再分散しても均一状態とならない。

上記評価方法により得られた結果を、表1及び2に併せて示す。

【0024】表1及び表2の結果から明らかなように、本発明に関わるヘアローションは、比較例1～5のものと比較して、毛髪へ塗布した時のヘアスタイルの崩れにくさに優れ、使用感(まとまり、指すべり、ツヤ、べたつきのなさ)が良好であった。また、安定性も良好であり、毛髪化粧料として優れた効果を有するものであること

とが実証された。

【0025】実施例7～9及び比較例6～8 ヘアスプレー

実施例1及び比較例1～3で調製したヘアローションを原液として用い、表3に示す組成のヘアスプレーを製造した。

【0026】

【表3】

(%)

(成分)	実施例			比較例		
	7	8	9	6	7	8
＜原液＞						
1. 実施例1	30.0	50.0	10.0	—	—	—
2. 比較例1	—	—	—	30.0	—	—
3. 比較例2	—	—	—	—	60.0	—
4. 比較例3	—	—	—	—	—	5.0
＜噴射剤＞						
5. 液化石油ガス	70.0	50.0	90.0	70.0	40.0	95.0
＜使用性試験＞						
ヘアスタイルの崩れにくさ	◎	◎	◎	◎	◎	◎
まとまり	◎	◎	◎	◎	◎	×
指すべり	◎	◎	◎	×	△	×
ツヤ	◎	◎	◎	◎	×	△
べたつきのなさ	◎	◎	◎	◎	◎	◎
＜安定性試験＞						
室温	◎	◎	◎	◎	◎	◎
40℃	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5℃	◎	◎	◎	◎	×	◎

【0027】(製法)成分1～4及び5をガラス製のエアゾール容器に充填し、ヘアスプレーを得た。

【0028】前述した評価方法と同様に、使用性試験並びに安定性試験を行った。得られた結果を表3に併せて示す。

【0029】表3の結果から明らかなように、本発明に関わるヘアスプレーは、比較例6～8のものと比較し

(成分)

1. ステアリルアルコール

2. トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル

3. パルミチン酸セチル

4. ポリオキシプロピレンブチルエーテル(40P.O.)

5. 香料

6. エタノール

(%)

5.0

40.0

10.0

5.0

0.2

39.8

【0031】(製法)

A：成分1～3を加熱溶解する。

B：成分4～6を混合溶解する。

C：BにAを添加して均一に混合し、ヘアリキッドを得

て、毛髪へ噴霧した時のヘアスタイルの崩れにくさに優れ、使用感(まとまり、指すべり、ツヤ、べたつきのなさ)が良好であった。また、安定性も良好であり、毛髪化粧料として優れた効果を有するものであることが実証された。

【0030】実施例10 ヘアリキッド

下記に示す組成及び製法で、ヘアリキッドを調製した。

た。

実施例10は、適度なセット性を有し、べたつかず、髪の指すべりとツヤの良好な、きわめて優れた効果を示すヘアリキッドであった。

【0032】

【発明の効果】以上詳述した如く、本発明の毛髪化粧料

は、毛髪に使用した時に、セットしたヘアスタイルを崩すことなく、また、べたつきや重さを生じることなく、適度なまとまりの良さ、指すべりの良さ、ツヤを付与する効果を有し、毛髪化粧料として優れた品質を有するものである。